

令和7(2025)年度 授業評価アンケートに対する自己点検・評価

教員氏名	授業評価アンケートに対する自己点検・評価	「自由記述欄」の内容に対する自己点検・評価
伊藤 雅一	本年も、質問3「主体的に学習したか」、これに関連する質問7「質問や意見を述べられるようにしたか」、質問11「興味や関心の持てるものであったか」。質問13「社会に出て役立つ内容が含まれていたか」の観点を重視し、授業運営を進めた。これらの評価項目については、春学期、秋学期の授業を通じて概ね4.5前後の評価であった。 授業では、尾張旭市のごみ減量など、学生にとって身近な課題を取り上げ、レポート課題に取り組むとともに、定期的に学生の理解度を確認することで、学生が主体的に学習に取り組めるように配慮している。今後の授業改善に向けても、レポート課題に対する予復習を促すなど、主体的な学習に対する配慮の継続と改善に取り組むことで、学習効果を高めていきたいと考えている。	授業で実施したレポートについては、学生にとって身近な課題を取り上げるとともに、回答内容は、その都度、学生にフィードバックしている。その際、レポートの評価基準を説明したうえで、この基準を満たす全てのレポートを紹介・共有するようにしている。 このため、春学期の授業では、「とても分かりやすく教えてくれた良い授業です」「分かりやすい」との意見があった。また、秋学期の授業では、「これから先の環境問題を解決するために、この授業で習うことはすごく重要で生かしていくことが大事だと思った」というコメントも寄せられた。レポートの実施やその結果のフィードバックによって、授業内容に対する理解を深めることができたと考えている。
伊藤 利明	春学期の科目:「教育原理」「社会科教育法Ⅰ」「社会科・公民科教育法Ⅰ」「道徳と宗教」、秋学期の科目:「社会科教育法Ⅱ」「道徳教育の理論と実践」「倫理学」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケート結果は、おおむね良好であった。 「道徳と宗教」の履修者数は60人、「倫理学」は128人であった。授業の回数が進むにつれて、欠席回数が増える学生がおり、結果的に2割以上の学生が欠席過多となっていた。	「教育原理」「社会科教育法Ⅰ」「社会科教育法Ⅱ」「社会科・公民科教育法Ⅰ」「道徳教育の理論と実践」「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」の授業評価アンケートでは、自由記述がなかった。 「道徳と宗教」では、パワーポイント資料の文字が小さいとの意見があった。使用教室が縦に長い教室であり、隣との間をあけた座席指定にしたため、後ろの席の学生が見づらかったと思われる。その後パワーポイント資料を見せる時間を長く取るように心がけるとともに、授業終了後に時間を取り、空欄の答えがわからない学生には答えを教えるようにした。 「倫理学」では、面白かったという意見があった。また、パワーポイント資料の枚数が多い、次のスライドに移るのが早い、という意見があった。今年度は昨年と比較して、パワーポイントの枚数を大幅に増やしたため、枚数が多いのも当然である。空欄に書き込んだかどうかを確認するように心がけた。授業終了後に時間を取り、空欄の答えがわからない学生には答えを教えるようにした。パワーポイント資料の余白を大きくしてほしいとの意見があったため、印刷時に余白を大きくした。
伊藤 理香	授業評価は全体的に高い評価であるが、一部の授業においては高評価を得られなかった。高評価の授業は、どの評価項目に対しても高い評価であった。しかし、高評価を得られなかった授業では、評価項目に対して評価が大きく分かれている項目があった。この要因は、理解度に差が生じたのではないかと考える。今後、授業を進める際には、更に学生の理解度を確認して進めていくことが大切であると考えている。また、学生が能動的に学習できるように努めたい。	授業に対するコメントとして、「すごくためになる授業でした。ありがとうございました。」とあった。このコメントは高評価が得られなかった授業からである。学生の理解度に差が大きいことが考えられることから、授業の工夫と対話的な授業を行っていきたい。

岡村 聖	本授業に対する評価は、全体平均が概ね4.0以上であり、大学全体の平均(約4.1)と同等またはそれ以上の水準であったことから、授業運営・内容ともに概ね適切であったと考える。特に、説明のわかりやすさや資料提示、授業への熱意、内容の有用性に関する項目については高い評価が得られており、一定の教育効果が確認できた。 一方で、「主体的学習」や「理解度確認」、「質問しやすさ」に関する項目については、他項目と比較してやや評価が低い傾向が見られた。また、自由記述においても「内容が難しい回がある」「より具体的・実践的な説明を求める」「双方向的な活動の充実」等の意見が一定数確認された。 これらを踏まえ、今後は以下の点を中心に改善を図る。 ・授業内での理解度確認の機会(小テスト、問いかけ等)の充実 ・難易度の段階的設計および補足説明の強化 ・ディスカッションや演習等を通じた双方向的な学習機会の拡充 ・実社会との接続を意識した具体例・事例の提示 以上により、学生の主体的学習を促進し、理解度および満足度のさらなる向上を目指す。	自由記述においては、授業内容に関して「専門的で価値がある」「基礎から丁寧に進められており理解しやすい」といった肯定的な意見が多く見られ、授業内容および構成について一定の評価が得られていることが確認できた。特に、インプットとアウトプットを組み合わせた学習方法に対する評価も見られ、学習効果の観点から有効であったと考える。一方で、「内容が難しい回がある」「より具体的な対策や実践的内容を知りたい」「資料の見やすさ(文字サイズ等)」「授業方法の工夫(眠気対策や画面の視認性)」など、授業理解や学習環境に関する改善要望も確認された。これらを踏まえ、今後は内容の難易度調整や補足説明の充実、具体的事例の提示、資料の視認性向上、ならびに双方向的な授業展開の工夫等を行うことで、より理解しやすく実践的な授業の実現を目指す。
河村 郁江	春学期の授業評価は総計の平均が4.2、秋学期の授業評価は総計の平均が4.1であった。 全体的に、一番評価が低かった質問は「授業の内容を理解するため主体的に学習しましたか」であり、自習の仕方についての指導を丁寧にすることが必要であることがわかった。一番評価が高かった質問は「熱意を持って指導していたか」であり、今後も熱意を持ち、社会に出てから役立つ指導をしていきたいと考えている。	メディアコミュニケーション論では、良かったという意見と、文字量が多い、目次が欲しいなどの意見があり、評価の良い部分を残しつつ、最初に全体の流れの説明をわかりやすくするなどの工夫が必要であることがわかった。バーチャルリアリティの授業では、Unityを使って実際に手を動かして作る部分に対して難しいという意見が多かったため、操作方法をもっとわかりやすくするように改善したい。また、Web構成論に対しては楽しみで授業をやったという意見があり、今後更に楽しく学べるように励みたい。
岩本 勇	春学期は、マーケティング論、グローバル経営情報戦略、秋学期は、消費者行動論、国際マーケティング論、グローバルビジネスⅠを担当した。 春学期の授業では、「学生からの質問や意見への配慮」「学生の理解度を確かめながら授業が行われたか」について平均点を下回ったが、そのほかの評価は全て全体集計結果の平均点を上回った。秋学期は、すべての評価項目に関して、全体集計結果の平均点を上回った。 今後は、学生からの質問や意見への配慮、学生の理解度を確かめながら授業を心がけ、より品質を高めていきたい。	

三宅 章介	経営分析論と経営管理論の二つの講義が担当であった。前者については、分数計算が多く、それに戸惑いを持つ学生が多かった。2026年度秋学期は、この計算をしっかりと教えていきたい。また、経営管理論は、比較的好く学んでくれたが、しかし、経営の現場を知らないのもので、この点は専門誌などで経営者の仕事を実際的に教えていきたい。	板書の文字が分からないという意見があった。気を付けているのであるが、もう少し学生の立場で改善していきたい。
上島 春喜	学生の評価を真摯に受け止めこれからの講義に生かした	自由記述がありませんでした
菅井 径世	本年も、評価点は担当する科目毎、年度毎に、変動している。昨年同様、学内全体で同様に変動が大きい傾向があるとのことであるが、個別のデータからも、評価点の平均値に対するばらつきが大きい傾向があることが分かった。履修生の数に対してアンケート数が少ないこと、また、回答のあったアンケートにおける評価項目においてどの質問に対しても同じ評価結果を選択している回答が多いことから、アンケートの数値が多少高くなっている場合も、変動は誤差の範囲であると評価すべきであると考え。授業内容の本質を変化させることはしていないが、例年、受講生の理解度に合わせて、それぞれの講義で工夫している。熱心に受講する学生が評価を高くしている可能性が大きいと思われる。	回答数が少ないので、アンケートによらず、学生に声をかけて希望を聞くようにしている。講義前の雑談で、理解しやすいか否かといった会話や、講義内容に関する会話をしているが、熱心な学生は、成績もよいものとなっている。PPTで見せる資料のうち、特に、ノートをとることが必要な内容については、時間が充分かどうか確認しながら進めている。本年度は、講義中に、ノートをとるための時間を希望した学生があったため、比較的、ゆっくりと進めたが、希望した学生の成績は非常に良かった。また、必要に応じてUNIPAに事前資料をアップロードするなどしているが、自由記述欄に、資料のアップロードを望む声があったので、周知するように改善したい。また、資料が、どの程度、役に立っているかの記載がないので、これも講義前の雑談等で調査してみたい。 一方で、「単位を取りやすい」という理由により、高評価を行う学生が増えているとの情報も得たが、担当の講義では、積極的に学習していないと単位を落とす結果となっているので、これには、当たらない。 講義内容について、背景となる事実を述べるようにしているが、「必要なことだけわかればよい」という向きの考え方をしている場合があるかもしれない。とくに、過去から現在に至った経緯は、今後の社会情勢の変化を予測し、備えるために重要な情報となる。講義以外の学修の機会においても重視してほしい。
世古 雄紀	春学期、秋学期ともに、IT領域を志す学生ではない割には評価は頂けたといいます。引き続き、興味を示す学生は延ばし、苦手な学生の底上げを心がけるように進めてまいります。	嬉しいコメントが1件だけありましたので、励みいたします。

瀬川 久志	今回に授業からAI:大規模言語モデル、推論モデルを毎回のテーマの学習に使用させたが、レポート提出は安易な依存と、深く掘り下げたものとの差が出たように思う。本学では、教育でのAIの使用に関して、基準(規定)が定められておらず、教師のみならず学生も学習への応用が判断しづらいと思います。「大学教育へのAIの利活用に関する基準」ほとんどの大学で定められおり、それに基づいて教育が行われています。本学も「基準」は作成すべきです。	コメントはありませんでした。本授業は、紙の教科書を使用しており、教科書をしっかり学習する学生とAIに依存する学生との間で、授業成果に大きな差が生じています。
石山 智典	すべての科目で平均を上回るか平均と同率の結果となった。教職課程であるので、目的意識が明確で授業に参加するモチベーションも一般の科目に比べると高いことが予想されるが、そうした学生の意欲にうまく対応することができたものと考えている。	「良い先生でした」が1件あった。教職課程において、先生の見本として良い影響を与えることができたものと考えている。
赤松 章	令和7年度秋学期に担当した「統計処理とデータマイニングⅠ(定量)」および「統計処理とデータマイニングⅡ(定性)」の授業評価アンケートの結果について確認したところ、総合的な評価は概ね良好であり、学生から一定の満足度を得られていることが確認できた。 「統計処理とデータマイニングⅠ(定量)」では総合平均が4.0、「統計処理とデータマイニングⅡ(定性)」では4.4となっており、大学全体平均(約4.1)と比較しても概ね同程度またはそれ以上の評価であった。 特に、 ・教員の授業への熱意 ・学生の理解度を確認しながら授業を進めているか ・授業が社会や専門学習に役立つ内容であるか といった項目については、比較的高い評価を得ており、統計・データ分析という専門的内容を扱う授業として、学生にとって有用な学習機会となっていると考えられる。 一方で、「主体的に学習したか」などの項目ではややばらつきが見られたことから、今後は演習や課題を通じて学生が自ら考えながら学習する機会をさらに充実させることが望ましいと考える。 今後も、統計・データ分析の基礎的理解と実践的活用の両面を重視しながら、学生の理解度を確認しつつ授業内容の改善を継続していきたい。	自由記述欄については、「統計処理とデータマイニングⅠ(定量)」において「有意義な授業でしたありがとうございました」というコメントが寄せられており、授業内容について一定の満足感を得てもらえたことが確認できた。 また、「統計処理とデータマイニングⅡ(定性)」については自由記述は特に記載がなかった。 授業は統計・データ分析という比較的難易度の高い内容を扱うため、学生が理解しやすい説明や資料提示を心がけているが、今後も学生からの意見を参考にしながら、より分かりやすく実践的な授業運営に努めていきたい。

巢 宇燕	授業評価アンケートの結果については、全体的にいずれの項目も平均値以上を確保しており、学生から一定の評価を得られていることを確認した。中でも、「関心を持てる授業で毎回とても楽しい」「数学が苦手でもAIに不安があったが、わかりやすい説明で理解が深まった」「授業が楽しすぎるほどで、内容すべてに興味を持てる」「必修科目にしてほしいほど素晴らしい授業だった」といった肯定的で前向きなコメントが多く寄せられており、授業内容や指導方法が学生の興味関心の喚起に貢献している点は特筆に値する。 こうした評価を踏まえ、引き続き学生の理解を促し、高い満足度を維持できるよう授業運営に努めたい。	自由記述欄には、学生からの質問として、「AIの具体的な活用方法をもっと知りたい」「ロボット技術は今後どのように進化するのか」「ロボットはどこまで進化すべきか、また技術的限界はあるのか」「AIにどのような未来予測があるのか」など、学習内容の発展的な問いが複数寄せられた。これらの質問は、学生が授業を通して高度な関心を持ち、より深い理解を求めていることの表れであり、教育的観点から非常に意義深いと評価している。 これらを受け、今後は授業内容の精査と情報更新を適宜行い、最新の知見をよりわかりやすく提示できるよう改善を図る。また、学生の関心に応じて内容を補強するなど、授業の質を一層向上させる工夫を継続したい。 さらに、ポジティブな点は伸ばしつつ、不十分と感じられる点は改善し、学生の学習意欲をより高められる授業設計を目指す。あわせて、授業全体の難易度のバランスを適切に保つことで、より充実した学びを提供できるよう努めていきたい。
中谷 智美	授業評価アンケートでは、全科目において全体平均を上回る評価が得られ、分かりやすさや学習環境に関して高い評価が確認された。一方で、主体的学習や到達目標の達成感には改善の余地がみられる。今後は、授業外学習を促進する工夫を行いながら、体験的・対話的な授業の質向上に取り組んでいく。	自由記述では、授業の分かりやすさや楽しさ、学習環境の良さに関する肯定的な意見が多く見られた。一方で、出席確認や復習時間に関する要望、および授業形式に関する意見も一部にみられた。出席確認については、不正防止と正確性の確保の観点から一定の時間を要するため、基本的な方針は維持する。また、復習については学生の主体的学習を促す観点から授業内時間の拡充は行わず、授業外での学習支援を継続する。さらに、授業形式については、初回に座学中心ではないことをより明確に伝えることで、受講前の認識との齟齬を減らす。
長谷川 泰洋	いずれの科目も総計4.5点で高い評価を得られている。特に評価が高い項目は、「授業の内容は自分にとって興味や関心のもてるものでしたか」、「先生は、熱意を持って授業に取り組んでいましたか」、「わかりやすい言葉を使ったりゆっくり話したりするなど、先生は聞きとりやすいように話をしましたか」で4.5点を得られていた。これらの点は、今後も維持していけるように取り組む。 一方、4点未満だったのは、「あなたは授業の内容を理解するため主体的に（自分自身で）学習しましたか」、「この授業を受けてみて、あなた自身がシバラスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか」の二つだった。このことから、学生がより主体的に学習する時間を確保できる様に主体的に学習する仕組み（課題提示、グループワーク等）を検討する。また、講義中に質問や意見を述べられる時間の確保や仕組みを取り入れていく。	複数の肯定的記述として、「わかりやすかった」、「詳しく知ることができて良かった」などがみられた。これらについては今後も維持できるようにする。 一方、複数の否定的記述として、「小テストのカンニング対策を徹底して欲しい」との回答がみられたため、小テスト時におけるカンニング対策については、これまで以上に厳しく対応していく。また、「配布資料中の書くスペースがやや狭い」や「文字がやや小さいところがある」などの記述もあるため、配布資料について改善を行う。

飯田 博	質問3: あなたは授業の内容を理解するための主体的に(自分自身で)学習しましたか(評価4.0) 質問4: この授業を受けてみて、あなた自身がシラバスに記載されているこの授業の到達目標を達成したと思いますか(評価4.0) 質問5: わかりやすい言葉を使ったりゆっくり話したりするなど、先生は聞き取りやすいように話をしましたか(評価3.8) 質問7: 先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか(評価3.8) 質問8: 先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めましたか(評価3.8) が他の質問に比べて評価が低い、をうけて ・毎講義時に今日のテーマを口頭、ブログ「ブログde学修支援: iid@lab.jp」http://iida-lab.seesaa.net/ で明確にしてシラバスとの整合性を周知することに努めているつもりであったが、事前に配布された「シラバス」が「授業に役に立っている」という認識が希薄なようであった。「シラバス」が『授業に役に立ってる』を認識させるには、シラバスの内容を講義録の形式にして充実させたい。また、予習・復習課題もブログにアップして処理・提出を励行するように指示したい。 ・話し方、受講生への接し方に改善が必要である。話し方に関しては「机間指導」の機会を増やし、学生とのコミュニケーションを図ることを意識しながら「机間指導」を徹底したい。教材の扱い方に対して丁寧に優しい説明をするように心掛けたい。 ・今後、毎回Web上で簡易授業アンケート: http://form1.fc2.com/form/?id=330065の充実を図り受講生の理解度を把握、興味のある点を抽出し、学生の要望を直に理解し、毎回「...ができ	改善を促す自由記述がありませんでした。
富田 裕平	簿記関連科目が例年よりも高い評価を受けることができたことはよかった点である。 今後、点数がさらに高まるように授業内容の向上を図りたい。 卒業後に社会で役立てることができる場面を提示するなど実践的に知識を活用できる点を説明し、更に授業に興味を持っていたできるように努力をしていきたい。	自由記述欄の記載がほとんどないため、今後は何かしら記載してもらえるような内容に改善したい。
服部 文彦	授業評価アンケートの内容を踏まえて、実務経験を生かした実践と理論でわかりやすく、理解しやすい授業を心がけていきたい。 授業内容の明確化や目標設定を求めることで、学習意欲が高まるように改善したい。	授業評価アンケートの内容を踏まえて、グループワークなどを多く取り入れているがスムーズな展開ができない。実務経験を生かした実践と理論でわかりやすく、理解しやすい授業を心がけていきたい。授業内容の明確化や目標設定を求めることで、今後はビジネスマナーを徹底した学習意欲が高まるような講義及び実習を創意工夫して改善したい。

福田 ムフタル	本年度は一科目の二つの評価項目を除いて全ての評価項目で平均評価値を上回る高い評価を受けており、授業が学生にとって非常に満足度の高いものであったと思います。更に自分の前年度の評価値も上回りました。これらの科目において、受講者が適度の人数であったことと、前年度の改善点を意識したことにより、授業内容が学生によく伝わり、学生とのコミュニケーションもよくできたことが評価に反映されていると考えられます。 一方、「情報処理基本演習(基礎・発展)」に関しては、「先生は、学生が質問や意見を述べられるように配慮しましたか」、「先生は、学生の理解度を確認しながら授業を進めましたか。」の二つの評価項目で平均評価値を下回る結果となりました。これらの項目は演習という科目の特徴上、学生主体で問題の理解や解決を行う授業であるため、学生が質問や意見を述べた場合、他の学生の注意力に影響が出るため、そのような機会あまり無かったのも事実であり、次年度その改善に努力したいと思います。 総じていえば、大半の科目における高評価は、教育方法が学生に適していることを示していますが、学生へのフィードバックと、教授法の更なる改善に努める必要があると考えます。	自由記述欄には肯定的に内容が大半であったが、改善要求も複数ありました。例えば、「もう少しゆっくり話せばもっといいと思います」、「ITパスポートや基本情報の資格試験用に、「このトピックではこのような問題が出ているからここは答えられるように覚えておけとか、即座に実益が得られるような形で教えてもらえたらもっと良いだろうなどは感じた」、「教科書に書いていないところをメモできないことが多かったため、画面切り替えのタイミングを少し遅くした方が良かった」との指摘がありました。これらの意見はどれを見ても改善すべき点であり、学生の満足度を上げていくためには更なる努力が必要であると考えます。
傍嶋 則之	担当5科目を通して、総計が4.1であるが、今年度は、留学生が特に事前事後の学習意欲が少なく、社会人基礎力を高める資格講座小テスト(販売士3級過去問題)への取り組み意欲が低く、日本語の理解力も含めて、前任校で行っていた留学生だけを対象にした授業をやるべき時なのかと感じた。	担当4科目は、自由記述が無かったり、良かったとの表現であるが、経営組織論については、短大と合同であり、短大の留学生のウエイトが8:2で、四大も留学生を筆頭に根気・やる気のない学生を中心に内容が難しいとの意見が多かった。学際的に難しい表現や単語がでている科目なので教科書を指定しているが、大半が購入しておらず、事前学習が出来ていない状況であった。結果的に覚えて欲しい箇所を中心に試験問題を作成したので再試験で落ちた学生は5人程度であるが、如何に興味のない学生に意欲を感じさせるかが今後の課題である。
本田 真	学生評価の総計は4.3～4.6ですべて全体の平均を上回ることができ、学生は概ね講義に満足していたと考えられる。評価点数が比較的良かったのが「9. 遅刻・早退せずに90分の授業を行ったか」と「12. 授業内容はシラバスの内容に沿ったものか」であった。遅刻・早退はせずに授業開始5分前には教室にいたので、授業最後の振り返りシートの記入が終了した学生から少し早く退出を認めていたのが原因ではないかと考える。次年度より退出の時間を遅らせる対応を取りたい。シラバスについては、講義の進捗によってずれが生じることがあったため、次年度は調整を行いたい。	【学生からのコメント】には「グループワークがいろいろな人とかわれるのがよい」との意見が多くあり、協働学習に対して好意的なコメントが多かった。グループワークが苦手な学生もいるので、かかわりの枠を丁寧に設定して学生の不安に対応したい。また「レジメの内容が多すぎる」との意見があったのでレジメを精選して文字を詰め込み過ぎないように対応したい。「授業の最初に、学生の書いた前回の振り返りシートを紹介してくれるので復習になった」という意見もあったが、「振り返りシートの紹介で時間がとられてレジメの最後まで終わらないことがあるので話を短くしてほしい」という意見もあった。学生が振り返りシートに書いた感想や質問を紹介する目的で行っているが、授業内容をもう一度精選したいと考える。

木川 智美	おおむね、意図した通り、学生から良い評価をもらえたと思いますが、さらに改善・工夫をしていきたいと思っています。	面白い授業だったとの記述がありました。引き続き、学生の興味を引き出すような授業を心がけて参ります。
野間 徹	・経営戦略(月曜日4限)4.3点:「あなたは授業の内容を理解するため主体的に(自分自身で)学習しましたか」が3.9点だった。これに対して、松林先生にアドバイスを求めて改善したい。具体的には定期試験以外に5つのハードルを設けて点数を積み重ねていく方式を導入する。 ・事業の調査と分析(月曜日3限)4.3点:東海学生アワードの見学、ミナミクリーニング様・酒井鋼管様を見学・実習を実施した。本学研究員の田代さん、同じくmusbunの鈴木さんの協力を得ながら座学ではない授業を心掛けた。ただ、経営戦略と同じく「自ら課題を解決して点数を積み上げていく」ような自発性を求めるやり方を導入すべきだったと反省している。 ・事業改善実習(木曜日1限・2限 富田先生と合同)4.0点:回答数が3人しかいないため、この点が残念であった。経営専門職学科3年生の場合、授業が成立していない。遅刻、欠席、居眠りが多く、本授業も本来、「インターンシップ先の事業の改善」をやるべきところ、インターンシップの状況が不明であり、学生へのヒアリングから授業に取り組んだ。この結果、①インターンシップでの遅刻等による途中終了、②インターンシップが実質的に実施されていない、③同左の理由により中小企業家同友会での事務局業務をさせたケース～等があり、事業改善実習の当初目的変更を余儀なくされた。そこで、れいんぼワークス様訪問、日本クリーナー様訪問、碧海工機様訪問、JR東海様とのディスカッション、ファミリーマート様とのディスカッション、StationAiへの訪問と企業様とディスカッションにより何とか15回の授業とその目的を達成することに取り組んだ。碧海工機様には採用を前提としたインターンシップ募集が1名出たり、その他の授業でも活発な意見交換ができたので結果的に良かったと考えている。※今後の要望としては、経営専門職学科全体としてインターンシップの結果を共有していただければ幸いです。学科長も把握されておらず、担当教員が学生にヒアリングするか状況把握の手段がないのは全体の授業	経営戦略の授業評価において、「ゲスト講師へ拍手を強制するのはどうか」との意見があった。これに対しては、第1回のガイダンスにおいて「礼儀・作法」として説明する必要があったと反省している。
矢野昌彦	環境系の科目の授業評価アンケートは人数も多いので、良好な評価であり、授業内容の満足度も高く評価されている。経営専門職学科においては、事業価値創造実習の評価が低い傾向もあり、マイプロジェクト選定からの改善に力をいれていきたい。	自由記述において、授業内容が特にわかりやすい。理解しやすいなど実践に役立つとの評価になっている。引き続き創意工夫を通じて、双方型のわかりやすく、役立つ授業を継続していきたい。
由川 稔	最低限こういう形で学生の声に向き合うことは必要だと思っております。	肯定的な評価が多かったとは言え、内容が難しいと感じた学生の声も散見されましたので、少なくとも彼らのやる気に火をつけられるような中身を工夫していきたいと思っています。